



## タイのお正月ソクラーン

北陸銀行 国際部  
バンコク駐在員事務所  
所長 湧川 裕明

### 1. はじめに

4月13日から15日の3日間は、タイでは仏暦のお正月「ソクラーン」の期間でした。タイでは一年にお正月が3回あります。西暦のお正月、中国の旧正月、そして仏暦のお正月です。

### 2. ソクラーンについて

ソクラーンとは、太陽の軌道が12か月の周期を終え、新たに白羊宮(おひつじ座)に入る時期を祝う伝統行事です。もともとは、仏像や仏塔、さらに年長者などの手に水を掛けてお清めをするという伝統的な風習が受け継がれてきたものでした。さらに、一年で最も気温が上がる季節の暑さしのぎとしても親しまれてきました。

近年はそれが転じて、街で通行人同士が水をかけあって楽しむ「水かけ祭り」として知られるようになり、バンコクはもちろん、各地で独自のイベントが開催され、これを目当てに多くの旅行者がタイを訪れるようになりました。

現在では、毎年4月13日から15日の3日間行うものとされ、タイの祝日にも定められています。今年は15日が土曜日であったため、17日の月曜日が振替休日となり、5連休となった方も大勢いました。

### 3. はじめてのソクラーン

3回あるお正月のうち、ソクラーンの期間は日本のお正月の感覚に近いように感じます。この期間、バンコクで働いている人がこぞって故郷へ帰ります。また、海外旅行に行くタイ人やタイへの観光客で空港は混雑していました。

コロナ禍で2020年から2022年までの3年間は、各地の水かけ祭りは中止となっていました。今年には規制もなく各地でイベントが行われました。筆者はタイに来て初めてのソクラーンでしたので、雰囲気味わうため、街に出てイベントを見に行きました。

大通りでは水鉄砲を持った人々がお互いに水を掛けあう光景がそこかしこで見られ、ピックアップトラックの荷台に乗った人が通行人に向かって水鉄砲を発射していました。期間中は知らない人同士でも水をかけあってもよい感じでしたが、水鉄砲を持っていない人には水を掛けないというマナーがあるようでした。筆者は水鉄砲を持っていなかったため、それほどの被害はありませんでした。

期間中は日本のニュースでも、イベントが最も盛り上がる「カオサン通り」で、ずぶ濡れになったレポーターの中継映像が流れていました。また現地の新聞の一面には、カオサン通りで水鉄砲を持って歩くずぶ濡れのプラユット首相の写真が掲載され、4年ぶりに行われるお祭りの様子が紹介されていました。

#### 4. おわりに

筆者はこれで、タイの3回の正月を体験しました。西暦の正月はライトアップやカウントダウンなど、世界のスタンダード的な雰囲気でした。中国の旧正月は、ショッピングモールが赤の装飾を施し、人々の購買意欲を高める消費中心のイベントでした。ソンクラーンは「水かけ祭り」のイベントが注目されますが、仏教国であるタイならではのお祭りだと感じました。



【セントラルワールド内のイベント会場の様子(筆者撮影)】

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**長城メール**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局

〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F

((株)人材情報センター内)

TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565

E-mail: info@chojo-hokugin.jp